

猛暑と太陽と「と」

「土曜寸言」020921

暑さ寒さも彼岸までとはよく言ったものである。昨日、今日さすがに夏の暑さも去って、文句なしにいい季節になった。

それにしても、この夏の暑さは半端ではなかった。加えて、ヨーロッパや中国大陸での大洪水、梅雨時に幾つも台風がやってくるなど、「異常さ」の目立った夏でもあった。

「温室効果がついにここまできたのですか？」というような質問をよく受けた。そもそも気象というのは「カオス」的な現象であって、小さな原因によって結果が大きく変わる考察の難しいものである。だから、この問いには、「分かりません」と答えるのが正解なのである。

ただ、一つ目に見えて直接的な原因らしいものがある。それは、太陽の黒点活動が活発だったということだ。しかも、この活発さは〇〇年にピークになると予想され、事実一昨年ピークをうったのである。それがあろうことが、今年またピークを記録してしまった。太陽の活動は、最も小さな周期として十一年で正確に変化する。その他にもっと長い数百年、数万年、数百万年の周期もあって、氷河期や多雨期、少雨期などの原因になったと言われている。そして今、いくつもの周期のピークが重なったかのように活動が活発になっている。つまり、太陽というストープがただ今最高出力運転中なのである。

ところで、「と」いう太陽の活発期には、地球を守る電離層が低く垂れ込めてくる。その上その濃度や分布の変化も激しい。そのため、短波で国際通信をしていると、デリンジャ現象のために殆ど通信不能に陥ってしまう。

いまや、国際電話やインターネットは七つの海に敷設された光ファイバでつながっているために、誰も太陽活動や電離層の不安定なことなど気にかけない。

その昔、オリンピック放送が短波を使ってなされていた時代、勝敗が決まる瞬間になると、きまって音声が消えてしまったものだ。フーディング現象というのだが、悔しがったものである。その頃には、郵政省電波管理局（現独立行政法人通信総合研究所）が発表する太陽活動の観測値や予報が実に重要なものだった。今でも毎日発表されていてインターネットで簡単に入手できるので一度見て欲しい。

もし今、光ファイバ技術がなくて、短波だけに頼って国際通信がなされるような技術環境にあったとすれば、ここ数年間は外交も貿易も全く機能不全に陥り、国際関係はテロや戦争も含めて全く成り立たなかったであろう。

もっともその方が、暑い夏をのんびり過ごせたのかも知れず、どちらが良いとも言えないのだが。

